

1 調査名称：長期未着手都市計画道路見直し事業交通量調査・推計業務

2 調査主体：新潟県

3 調査圏域：新潟県

4 調査期間：平成23年度～平成27年度

5 調査費： 4,413千円（当年度までの合計：7,773千円）
（総合都市交通体系調査）

6 調査概要：

新潟県の長期未着手都市計画道路の現状（H25.3.31現在）は、都市計画決定済みの幹線街路延長1,716kmに対して、整備済みが1,013km、整備中は69km、未着手は634kmであり、未着手となっている634kmのうち、564kmが20年以上の長期未着手路線となっている。

人口減少や少子高齢化の進行、中心市街地の衰退など、社会情勢の変化を踏まえ適切に長期未着手都市計画道路の見直しを行う必要があるが、見直しは、まちづくりの視点から一体的に行う必要があるため、地域に密着した基礎自治体である市町村が主体となり取り組みが進められている。

新潟県では、市町村の取り組みを促進するため、平成18年12月に「新潟県都市計画道路見直しガイドライン」を策定するとともに、市町村と連携し、都市計画道路の見直しに必要な「将来交通量の推計」及び「検証」作業を平成22年度から実施しており、今回は、燕市における「将来交通量の推計」及び「道路ネットワークからの検証」に係る調査を燕市と連携し新潟県で実施したものである。

I 調査概要

1 調査名：長期未着手都市計画道路見直し事業交通量調査・推計業務

2 報告書目次

1 業務の概要

2 交通現況調査

2.1 調査の概要

2.1.1 調査の目的

2.1.2 調査概要

2.1.3 調査箇所

2.2 調査日の概況

2.3 調査結果の概要

2.3.1 調査結果の概要

2.3.2 日交通量の推定

3 道路ネットワークからの検証

3.1 交通量配分用データの作成

3.1.1 交通量推計の目的

3.1.2 推計フロー

3.1.3 交通量配分用データの作成

3.2 交通量配分

3.2.1 現況交通量配分結果

3.2.2 現況交通量配分の再現性

3.2.3 将来交通量配分結果

3.3 道路ネットワークからの検証

3.3.1 現況交通量による検証

3.3.2 将来交通量配分による検証

3 調査体制
なし

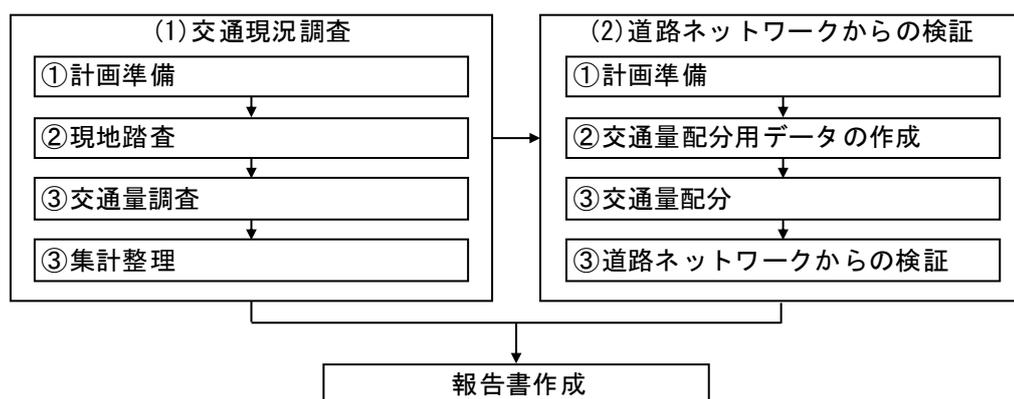
4 委員会名簿等：
なし

II 調査成果

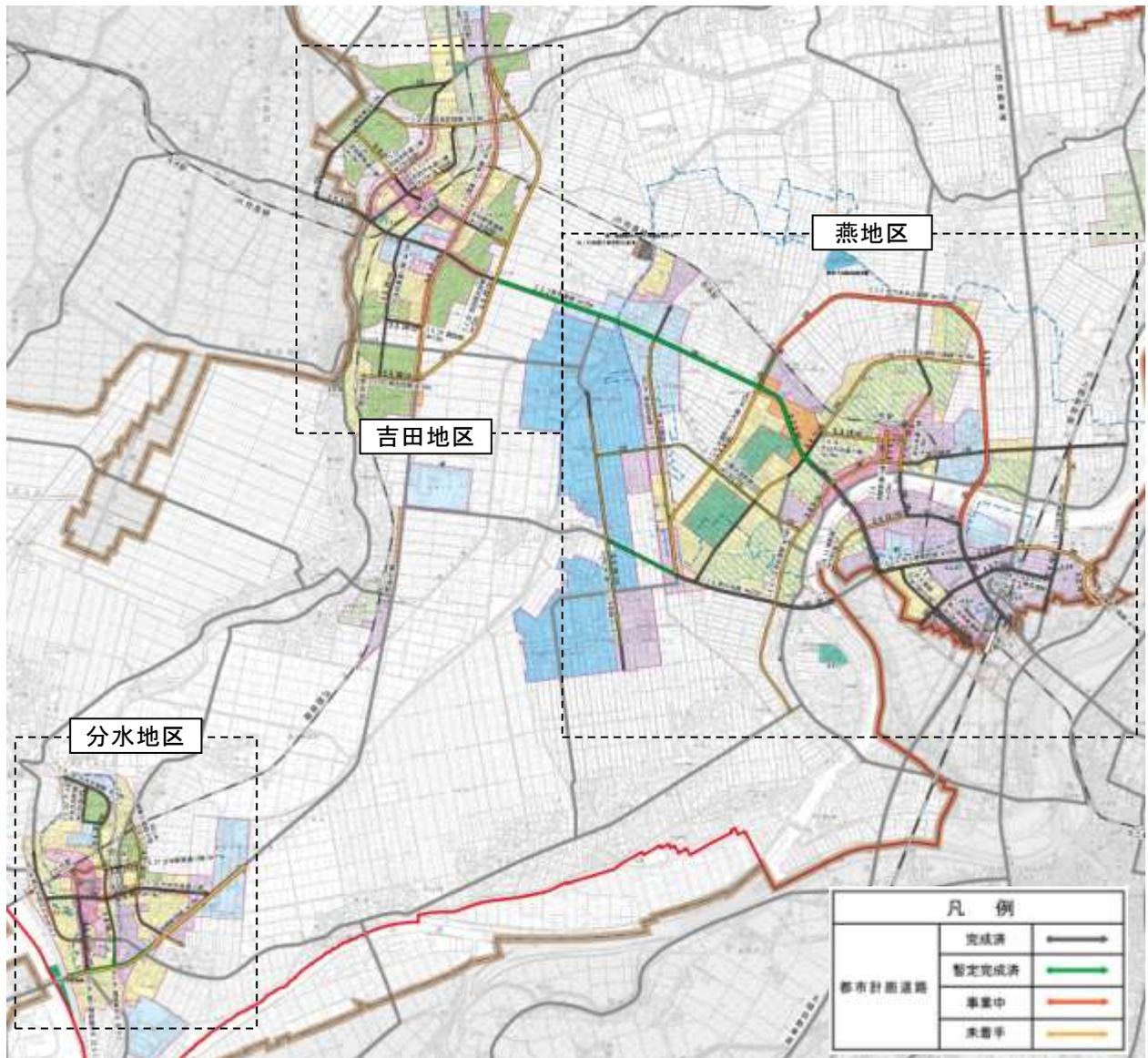
1 調査目的

本調査は、燕市の都市計画道路の見直し方針について、「新潟県都市計画道路見直しガイドライン」（平成18年12月）に基づき、「道路ネットワークからの検証」を行うことを目的とする。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

(1) 交通量現況調査

○現況道路の利用状況を把握し、見直し検討の基礎資料とすることを目的として、交通量現況調査を行った。

調査箇所は下記のとおり

表 交通量調査箇所

地区	NO.	対象路線	調査路線	備考
燕	①	3.3.5井土巻東町線	(市)井土巻小高線	現道
	②	3.4.10佐渡線	(市)新生町佐渡線	現道
	③	3.4.11水道町小高線	(市)燕吉田幹線	現道に相当する道路
	④	3.4.12燕中央通り線	(主)新潟燕線	現道
	⑤	3.5.15小関水道町線	(市)小関水道町線	現道
	⑥	3.5.16物流センター線	(市)物流センター線	現道
吉田	⑦	3.4.22月潟吉田線	(一)月潟吉田線	現道
分水	⑧	3.4.38分水北部線	(市)新堀新町線	現道
	⑨	3.5.35砂小塚笈ヶ島線	(一)五千石巻新潟線	現道に相当する道路



図 交通量調査箇所（燕地区）



図 交通量調査箇所（吉田地区・分水地区）

○調査結果

表 交通量調査結果 [H25.10.03(木)]

地区	NO.	対象路線	調査路線	自動車 交通量 (台/12h)	歩行者 交通量 (人/12h)	自転車 交通量 (台/12h)	バイク (原付含む) 交通量 (台/12h)
燕	①	3.3.5井土巻東町線	(市)井土巻小高線	6,542	16	73	64
	②	3.4.10佐渡線	(市)新生町佐渡線	11,218	13	43	47
	③	3.4.11水道町小高線	(市)燕吉田幹線	5,661	64	162	74
	④	3.4.12燕中央通り線	(主)新潟燕線	7,724	122	348	69
	⑤	3.5.15小関水道町線	(市)小関水道町線	3,852	38	88	37
	⑥	3.5.16物流センター線	(市)物流センター線	7,065	4	10	9
吉田	⑦	3.4.22月潟吉田線	(一)月潟吉田線	3,494	116	152	62
分水	⑧	3.4.38分水北部線	(市)新堀新町線	2,620	274	125	24
	⑨	3.5.35砂小塚笈ヶ島線	(一)五千石巻新潟線	2,262	100	97	17

○日交通量の推定

表 推定日交通量

地区	NO.	対象路線	調査路線	自動車 交通量 (台/12h)	昼夜率	推定 日交通量 (百台/日)
燕	①	3.3.5井土巻東町線	(市)井土巻小高線	6,542	1.25	82
	②	3.4.10佐渡線	(市)新生町佐渡線	11,218	1.25	140
	③	3.4.11水道町小高線	(市)燕吉田幹線	5,661	1.25	71
	④	3.4.12燕中央通り線	(主)新潟燕線	7,724	1.28	99
	⑤	3.5.15小関水道町線	(市)小関水道町線	3,852	1.25	48
	⑥	3.5.16物流センター線	(市)物流センター線	7,065	1.25	88
吉田	⑦	3.4.22月潟吉田線	(一)月潟吉田線	3,494	1.25	44
分水	⑧	3.4.38分水北部線	(市)新堀新町線	2,620	1.25	33
	⑨	3.5.35砂小塚笈ヶ島線	(一)五千石巻新潟線	2,262	1.25	28

(2) 燕市都市計画道路見直し案について

○燕市都市計画道路見直し案は以下のとおり。

○ただし、3.3.8 燕駅前通り線、3.4.12 燕中央通り線、3.4.14 白山中央通り線については、現在検討中である。このうち、3.4.12 燕中央通り線は現道で2車線確保されているため（交通量配分上影響がない）、見直し案は3.3.8 燕駅前通り線（このうち燕駅から3.4.14 白山中央通り線までの区間）および3.4.14 白山中央通り線について、廃止（見直し案A）および継続（見直し案B）とした2案の将来交通量配分を実施した。

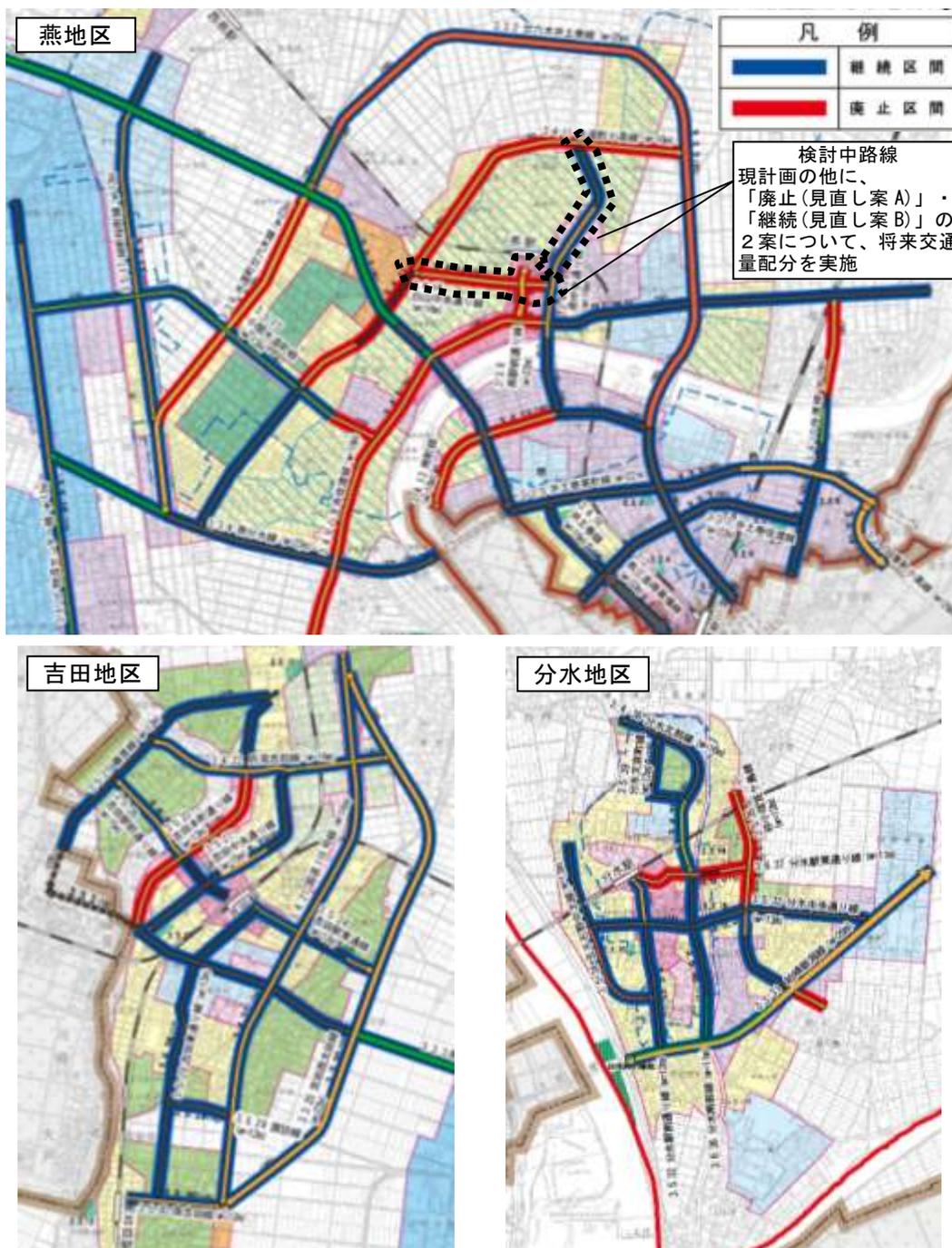


図 見直し案による道路ネットワーク

(3) 現況交通量による検証

○交通現況調査の結果及び道路交通センサスなどの既往資料をもとに、問題を抽出し、見直し案により課題に対応できることを検証した。

表 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（自動車）

	路線名	現況交通量 (百台/日)	現道の状況	見直し案による 対応状況
①	3.3.3 燕弥彦線	134	2車線確保済み	4車線拡幅
②	3.4.10 佐渡線	140	2車線確保済み	並行道路の整備
③	3.4.12 燕中央通り線	99	2車線確保済み	並行道路の整備
④	3.5.17 緑町桜町線	109	2車線確保済み	幹線ネットワークの強化
⑤	3.4.21 国道116号線	171	2車線確保済み	並行道路の整備



図 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（自動車：燕地区）

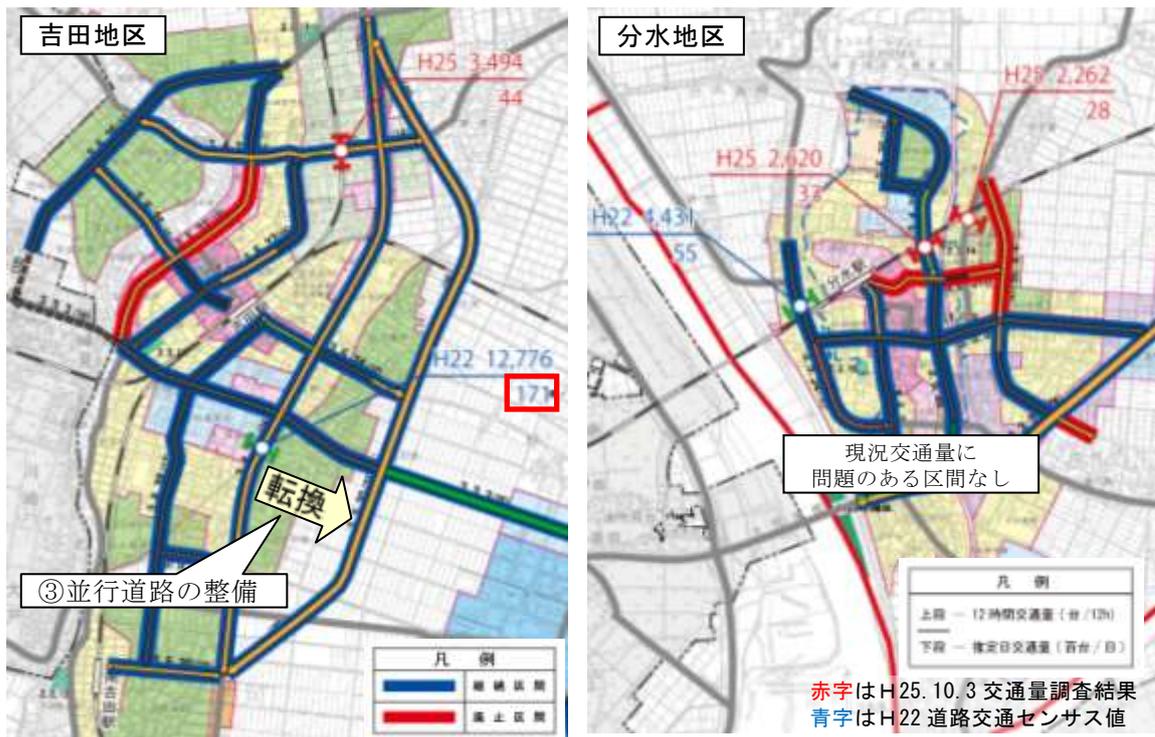


図 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（自動車：吉田・分水地区）

表 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（歩行者自転車）

	路線名	歩行者・ 自転車 交通量 (人・台/12h)	見直し案による 対応状況	現道・代替路線 の状況
①	3.4.11 水道町小高線 (市)燕吉田幹線	226	廃止	歩道あり(代替路線) 車道部幅員 9.2m
②	3.4.12 燕中央通り線	480	[見直し案1]廃止 [見直し案2]継続	歩道なし 車道部幅員 8.0m
③	3.4.15 小関水道町線	126	継続	歩道あり 車道部幅員 8.6m
④	3.4.22 月潟吉田線	268	継続	歩道一部なし 車道部幅員 7.0m
⑤	3.5.35 砂小塚笈ヶ島線 (一)五千石巻新潟線	197	廃止	歩道あり(代替路線) 車道部幅員 8.0m
⑥	3.4.38 分水北部線	399	継続	歩道あり 車道部幅員 6.8m

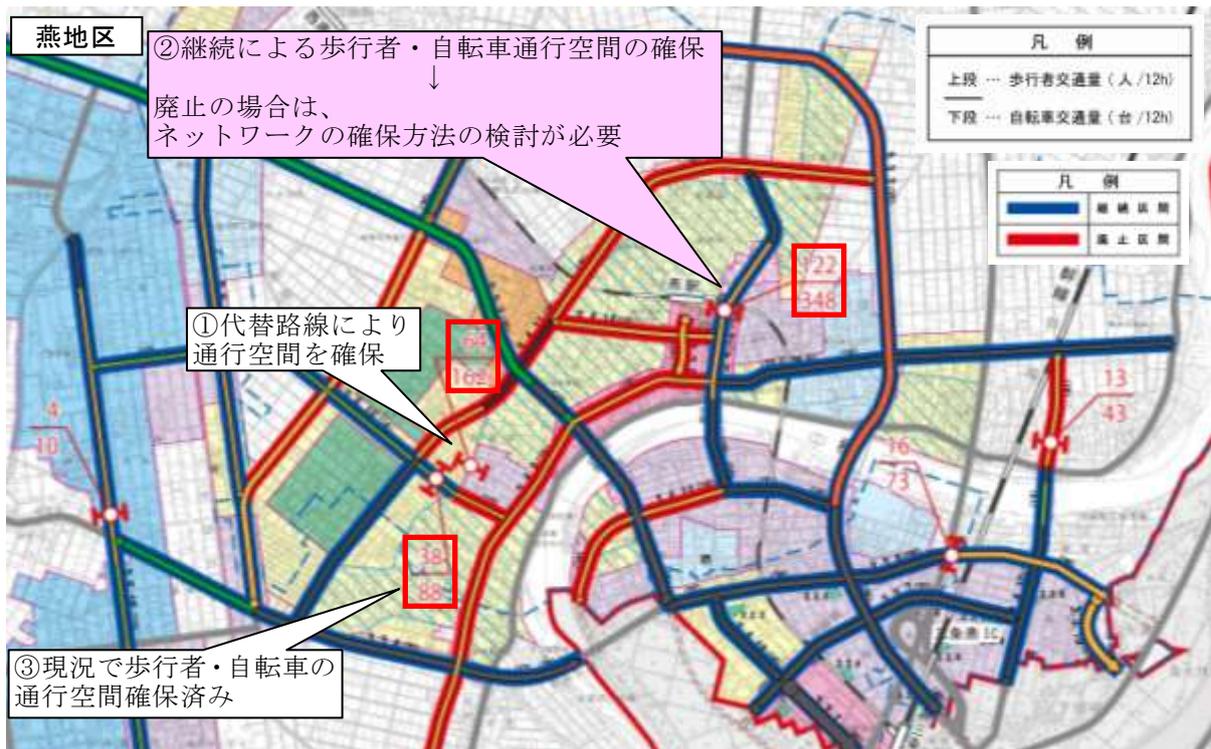


図 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（歩行者自転車：燕地区）

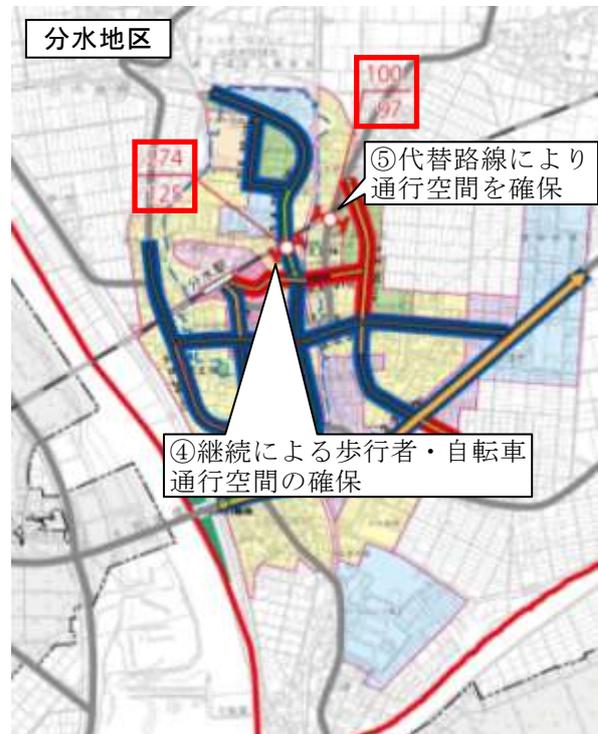


図 問題区間と都市計画道路見直し案の対応状況（歩行者自転車：吉田・分水地区）

(4) 将来交通量配分による検証

○将来交通量配分を行い、現計画と見直し案の比較を行い、自動車交通需要に対する道路ネットワークの妥当性について検証を行った。

○見直し案 A

【燕地区】

- 3.4.9 八王寺佐渡線・3.4.14 白山中央通り線の廃止により、(主)燕地蔵堂線へ交通転換する。ただし、現況配分の値と比較すると、交通量が減少しており、交通負荷は現状よりも緩和の傾向にあると考えられる。
- 3.4.11 水道町小高線の廃止により、3.3.2 廿六木井戸巻線や代替路線へ転換する。3.3.2 廿六木井戸巻線は、4車線の計画であり、容量に余裕がある。代替路線も容量に余裕があり、問題ないものと考えられる。
- 3.3.6 水道町廿六木線の廃止により、3.5.17 緑町桜町線に交通転換する。ただし、3.3.6 水道町廿六木線の起点部は3.5.17 緑町桜町線として2車線で継続される。このため、3.5.17 緑町桜町線の路線全体としては、交通量が抑えられており、また、現況よりも交通量は減少する傾向が見られる。以上により、問題はないものと考えられる。

【吉田地区】

- 3.4.21 国道116号線は現計画と同程度であるが、交通負荷が高い状態にある。現況でも交通量が同程度であることを踏まえると、現計画・見直し案ともに将来に渡り、現況の混雑状況に変化がないことが予想される。

【分水地区】

- 3.5.35 砂小塚笈ヶ島線の廃止により、代替路線である(一)五千石巻新潟線に交通量が転換するが、交通容量に余裕がある。
- 3.6.37 分水駅東通り線の廃止により、3.5.33 分水中央通り線に交通量が転換するが、交通容量に余裕がある。

○見直し案 B

【燕地区】

- 見直し案 A と概ね同様の状況であるが、3.4.14 白山中央通り線を継続することで、(主)燕地蔵堂線の交通負荷が低減し、交通容量に対し、余裕がある。ただし、3.4.14 白山中央通り線の交通負荷は高く、他路線の整備や交通量低減のための検討が必要である。

【吉田地区】

- 見直し案 A と概ね同様の状況である

【分水地区】

- 見直し案 A と概ね同様の状況である

单位) 百台/日

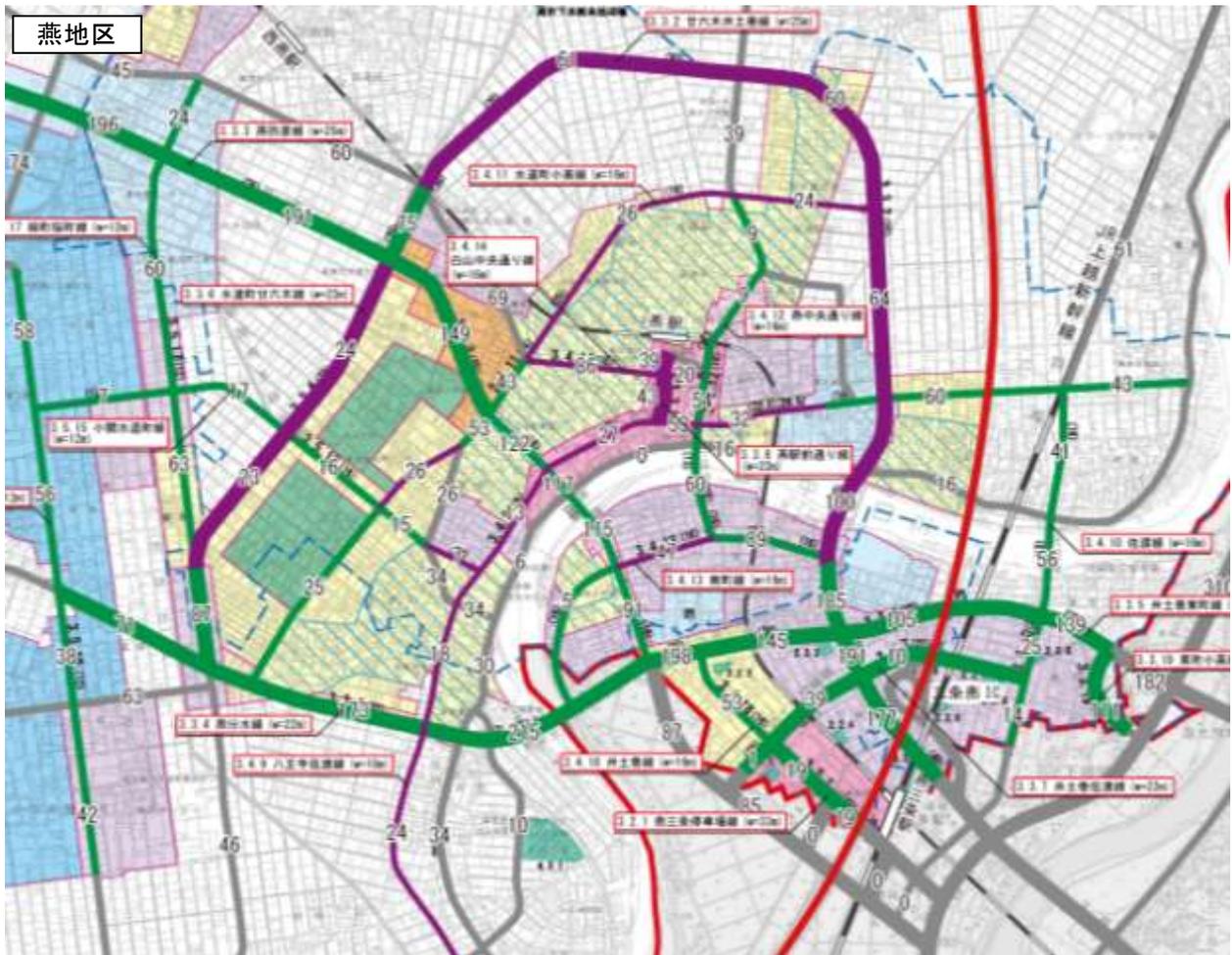


図 交通量配分結果 (現計画)

単位) 百台/日

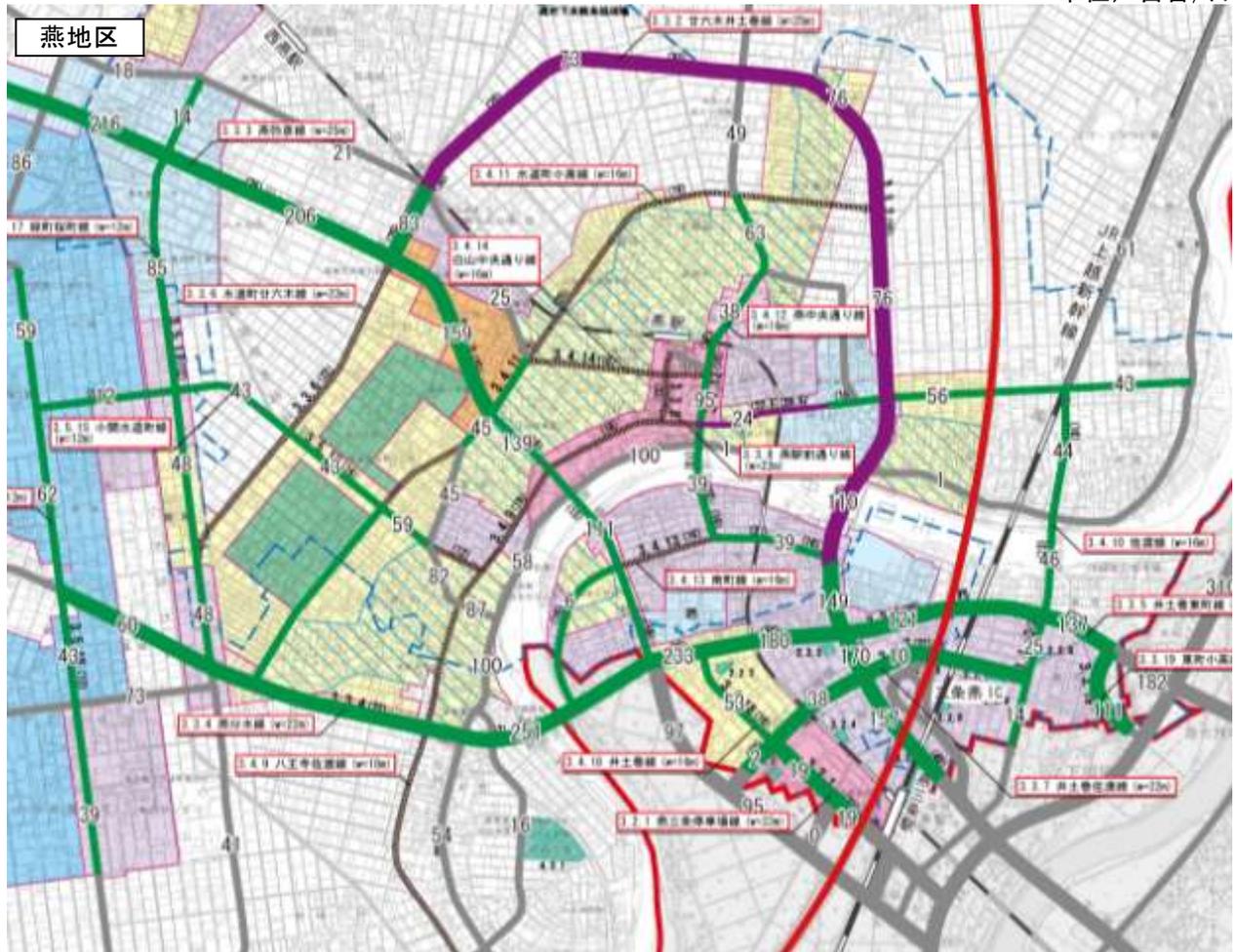


図 交通量配分結果 (見直し案 A)

単位) 百台/日

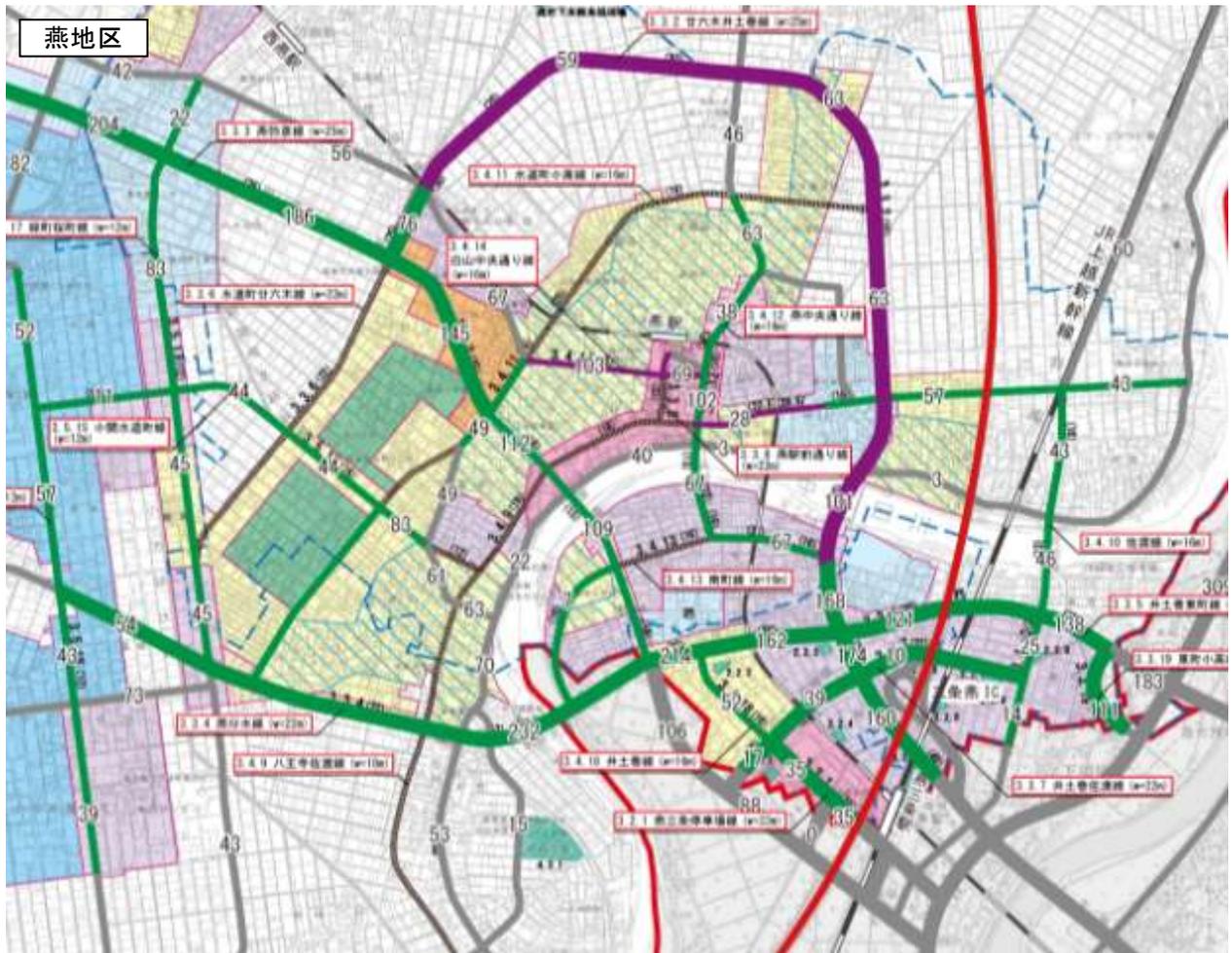


図 交通量配分結果 (見直し案 B)